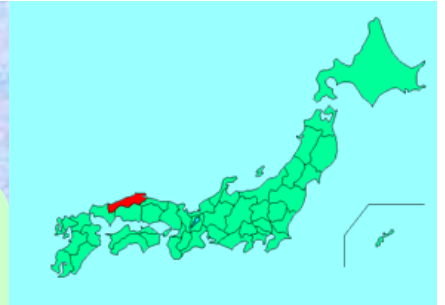




だいはちかみはしなみばし  
第8上橋波橋



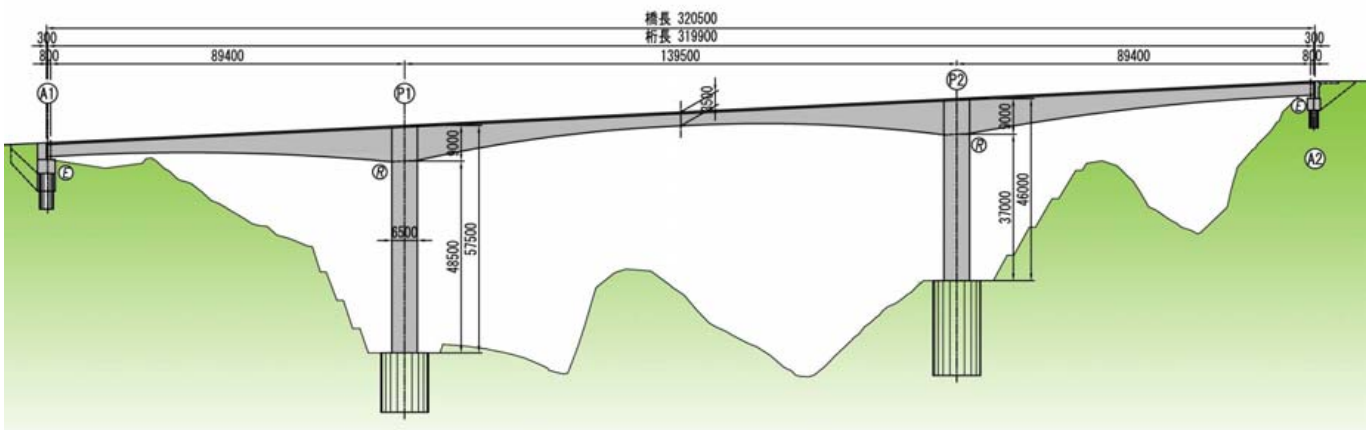
第8上橋波橋は、島根県飯石郡頓原町とんばらちように建設される志津見ダムにより付け替えとなる一般国道184号の橋梁です。付け替える区間は、簸川郡佐田町上橋波地内から飯石郡頓原町八神地内までの延長L=11.3kmで、本橋は、佐田町と頓原町を跨ぐ志津見ダム直下流に位置しています。

本橋は、全体で20橋ある橋梁群の中で、最長のL=320.5mとなる橋梁です。急峻な山岳斜面に計画されていることから、自然地形の改変を極力抑え、かつ、橋梁の建設費を下げるため橋脚本数を減らしたことで、中央支間長はL=139.5mと連続ラーメン橋としては国内でも最大級の規模となっており、内外ケーブル併用構造を採用しています。



一般図

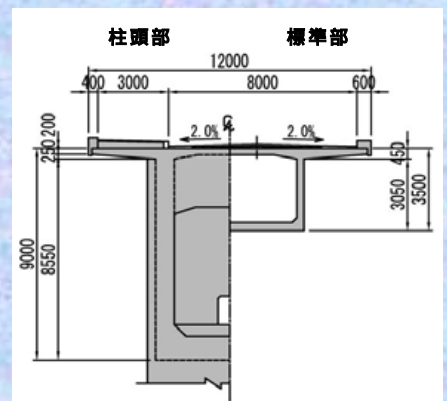
側面図



橋梁諸元

- 工事名：志津見ダム第8上橋波橋上部工事
- 発注者：国土交通省 中国地方整備局
- 設計者：パシフィックコンサルタンツ(株)
- 位置：島根県簸川郡佐田町上橋波地内～飯石郡頓原町角井地内
- 道路規格：第3種第3級
- 形式：PC3径間連続ラ-メン箱桁橋
- 荷重：B活荷重
- 橋長：320.5m
- 総幅員：12.0m（有効幅員：8.0m（車道部）+3.0m（歩道部））
- 架設工法：張出し架設工法
- PC鋼材：外ケーブル SWPR7B 19S15.2（ディビダーク工法）  
内ケーブル SWPR7B 12S15.2（ディビダーク工法）  
床版横締め SWPR19B 1S28.6（SM工法：プレグラウト鋼材）  
横桁横締め SWPR19B 1S28.6（SM工法）  
鉛直鋼材 SBPR930/1180 32（ディビダーク工法）

断面図



## 構造・施工概要

### 1) 上部工

張出し施工を対称施工で行った場合、側径間長の比率が中央径間より長くなります。また、橋台前面は急峻な地形であり支保工施工が困難です。このため、中央径間を閉合した後に、両側径間を2次張出し施工(2ブロック)するように設計されています。

本橋は内外ケーブル併用構造を採用しており、外ケーブルは、主桁自重以外の荷重に対して配置されています。配置本数は、中央径間が8本、両側径間が4本であり、予備孔が設けられています。

床版横締鋼材には、省力化を目的としてプレグラウト鋼材を使用しています。

### 2) 下部工

橋脚には、断面のスリム化などを図るため、 $ck=40N/mm^2$ の高強度コンクリートが採用されています。



P1 橋台



全 景



P2 橋台

### 工程表

項 目	平成15年												平成16年											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
準備工	■	■	■																					
脚頭部工			■	■	■																			
柱頭部工					■	■	■	■																
張出し架設工								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■					
中央閉合工																	■	■						
側径間閉合工																	■	■	■	■				
橋台後打工																				■	■	■		
橋面工																					■	■	■	■